

式 辞

毎年入学式当日の桜の開花状況は、私にとって大変記憶に残るものです。例えば新三年生の入学式の日桜はまだ固いつぼみで、今後の成長を期待させるものでした。一方、新二年生は満開を過ぎ春爛漫の世界が祝福する入学式でした。そして今年の桜は昨日までの固いつぼみがいよいよ膨らみ始め、まるで皆さんが本校で花開くことを予兆しているようにも感じます。そんな生命の爆発を目前に控えた穏やかな日、ご来賓の皆さま、保護者の皆様方のご臨席を賜り、令和六年度の入学式を挙行できますことは、この上ない喜びであり厚く御礼申し上げます。

さて、ただ今入学を許可いたしました三百二十一名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。教職員一同、心より歓迎いたします。今皆さんの顔を拝見すると、ここ深志ヶ丘で学ぶ機会を自らの手にすることができた喜びをかみしめているように見受けられます。今日の喜びは、皆さんのこれまでの努力の結晶であることは勿論ですが、その影には皆さんを慈しみ育ててくれた御家族や先生、周囲の皆様方の愛情や苦労があったことを忘れてはなりません。それら数多くの善意や声援に深い感謝の気持ちをこれからも持ちつづけてください。

そして、本日ご臨席いただきました保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございませう。今日のこの日まで、我が子の成長のために骨身を惜しまず文字通り手塩にかけて養育されましたご労苦に、深甚なる敬意を表するものであります。時代の変化、社会の変化に伴い、学校教育は大きく変わってきております。しかし、一人ひとりの生徒の自己実現を図り、次世代の担い手を育むという教育本来の役割にはいささかの变化もありません。そのために学校と家庭が協力し、同じ思いで子どもと接し、支援することが必要だと考えます。学校との連携を密にしながら、ご家庭でも子どもと触れ合う機会を大切に、我が子の成長を温かく見守っていただきたいと思います。

松本深志高等学校は創立以来百四十八年目を迎えますが、その間「自治」の精神を支柱とし、生徒は互いに切磋琢磨しながら進路実現を目指して勉学に励むとともに、豊かな人間性を育てております。また、創立の精神を引き継ぐ一方で、地域や時代の要請に応え、常に新しい教育も導入しております。新入生の皆さんも、そんな深志高校において、思う存分学び、自分自身を成長させていってほしいと願っています。そのためにわれわれ教職員一同、精一杯みなさんの学びを支え、学校生活を応援してまいります。

さて、入学式に当たり、最初に皆さんにお伝えしたいことがあります。それは、皆さんにとって、この入学式は高校受検の結果としてのゴールではなく、皆さんが人生を歩むための学びを進めていくうえでの、新たなステージのスタートであるということです。皆さんは、今、この学校でどんなことをしてみたいと考えていますか。これからの三年間、学校の内外には皆さんの成長を応援する様々なプログラムが用意されています。将来に向けて、さらには青春を謳歌するためには、今をゴールだと思っていてはあまりにももったいないと思います。十代後半の輝かしい日々、ぜひ深志という自分らしさを発揮できるステージで、自らの輝きを追求してみませんか。

ところで、今申し上げた「自らの輝き」とはなんでしょうか。学習成績で上位となることでしょうか。部活の大会で良い成績をとることでしょうか。もちろんそれらも輝きです。しかしここで申し上げる「自らの輝き」とは、成績や能力を他人と比較して優れていることではありません。他人との比較にとらわれていると、どうしても自分が劣っているのではないかと思っ
て落ち込んだり、やる気をなくしてしまうことがあります。これからの変化の激しい時代、またAIの発達により生活様式の変化すら予感される予測不能な時代において、一つの価値基準だけをもって他人と比較して、優れているとか劣っているとかで判断しては、社会を生き抜くことができません。では生きる力を身につけるためにはどうすれば良いのか、私は、自分の得意なことや好きなこと、尖がっている部分をとことん追求するということをお勧めします。言い換えるとそのことこそ「自らの輝き」であると思います。そして、将来その輝きをさらに発展させるために、あるいは輝きを追求する過程で発見した自分の目標に向けて、基礎的な学力を身につけ、大学入試等に向けて頑張りたいと思うことができれば、学びに向かう意欲が大いに高まるのだと確信しています。もう一度言いますが、皆さんには他人との比較ではなく、この高校に在籍している間に、自分の輝きが存在する居場所を、ぜひ見つけていただきたいと私は願っています。

先日、日本経済新聞の長野県版に本校の紹介を記述しました。その中の一部を抜粋して紹介いたします。「多様な他者を尊重し協働する中で、一人ひとりの好きや、楽しい、なぜをとことん追求できる探究県長野を目指す。これは昨年出された第4次長野県教育振興基本計画のキーワードの一つです。松本深志高校は、自治の精神のもと、県から言われるまでもなく、まさにこうした取り組みを先輩たちから脈々と受け継いできました。研究系部活動は〇〇研究会とか、〇〇会と自らを呼び、大学の研究会のように自分たちで設定した問いや課題を追い求めます。この精神は、その他の部活動や、生徒会活動、各委員会活動においても同様で、生徒たち自身で課題を克服しながら活動しています。さらにその精神は課題解決型の探究的な学びや授業にも及び、学びのモチベーションを向上させているのです…。」

深志高校での伝統でもある自治による課題解決型の取り組みは、授業や探究の時間や各種教養ゼミ等と有機的に結びついて、生きる力と進路に必要な学力を身につけていく意欲を作り出す。本校の歴史の中で、生徒・職員がともに作り上げてきた学びのシステムです。さあ、新入生の皆さん、皆さんもこの深志というステージで、ともにパフォーマンスをしていこうではありませんか。高校入学をゴールだと考えていたあなた、いかがですか、新たなスタートを切ってみようと感じるようになりましたか。

皆さんが、やりたいことに精一杯取り組み、そして自分の居場所を見つけながら、充実した楽しい高校生活のスタートを切ることのできることを、心より応援し願っておりますが、もし思うようなスタートが切れないなあと感じたときには、ぜひ、担任の先生や、周囲の先生方誰でもいいので相談してみてください。きっと先生方は親身になって皆さんを支援してくださいます。遠慮は必要ありません。

最後になりますが、世界に目を向けると、今まさに戦火に苦しんでいる人々があり、学びたくても皆さんのように学ぶ環境が整わない子どもたちもいます。いま、この地で学べる幸せを

かみしめるとともに、これから学んでいくことを、将来的には自分や社会の豊かさや持続可能性につなげられること、最近はやりの言葉を使えばウェルビーイングと言いますが、このウェルビーイングの形成に資することが、ここでこれから学ぶ意味の一つであることを申し添えたいと思います。

以上、本日の入学式にあたり、所感の一端を申し述べるとともに、新入生の皆さんが本校で有意義な学校生活を送られることを心から祈念し、式辞といたします。

令和六年四月四日

長野県松本深志高等学校長

石川 裕之